

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2469 号

Relation between histological prostatitis and lower urinary tract symptoms and erectile function

病理組織学的な前立腺炎症所見と下部尿路閉塞症状および性機能の関連性についての検討

水野 太起 (みずの たいき)

博士 (医学)

論文内容の要旨

慢性前立腺炎は会陰部・骨盤部の疼痛・不快感、排尿時痛・排尿障害などの症状が持続することで QOL を悪化させることが知られているが、その病因は明らかでない。近年、前立腺組織内の組織学的炎症反応が症状を引き起こすメカニズムが検討される一方で、無症候性ながら前立腺組織内に炎症所見を有する患者も多数存在することも報告されている。すなわち、仮に前立腺組織に炎症反応が波及していても、会陰部・骨盤部の疼痛・不快感などの慢性前立腺炎症状が強く発現する患者から、無症状の患者まで幅広く存在することになる。一方で慢性前立腺炎様の症状を有するものの、前立腺組織内にはさほど炎症所見を伴わない患者の存在も知られている。慢性前立腺炎症状を訴える患者には様々な背景が混在していることから、確立された評価方法や治療法が存在せず、しばしば治療に難渋してきた。さらに、前立腺組織の炎症所見の程度と症状（排尿症状、性機能症状、慢性前立腺炎症状）の関連性についても、これまでさほど検討がなされていない。今回、当院で前立腺生検を行い、前立腺癌を検出しなかった 26 名を対象に、前立腺組織内炎症反応と症状との関連性を評価した。前立腺組織内炎症反応は、抗 CD45 抗体を用いた免疫組織染色を行い、陽性率を Quick スコアにて評価した。症状は生検施行前に、国際前立腺症状スコア (IPSS および QOL)、過活動膀胱症状スコア (OABSS)、米国国立衛生研究所慢性前立腺症状スコア (NIH-CPSI)、国際勃起機能スコア (SHIM) の各種質問票を用いて評価した。また、生検前に前立腺特異抗原 (PSA)、前立腺体積、排尿時の最大尿流率も評価し、年齢とともに検討項目とした。前立腺組織内の炎症所見 (Quick スコア) は前立腺体積、IPSS、QOL、OABSS、NIH-CPSI と相関を認めたものの、前立腺体積調整後の多変量解析では NIH-CPSI のみが Quick スコアに関連する独立した因子であった。NIH-CPSI のサブスコアにおいて、特に排尿サブスコア (残尿感と頻尿) が独立した因子と判明した。前立腺組織内に炎症が波及した場合は、様々な症状が惹起されるとともに、前立腺の組織学的炎症程度は NIH-CPSI で推測できる可能性が示唆された。